Shonan Keiiku Hospital

湘南慶育通信

SHONAN KEIIKU QUARTELY PRESS

vol.01 2019 創刊号

vol.01
2019
創刊号
季　刊

特集 脳神経センター開設

01 院長のごあいさつ
02 トピック｜脳神経センター開設
03 医師の横顔｜副院長 寺山 靖夫
04 知りたい診療科「耳鼻科」・「泌尿器科」
05 連載｜リハビリ通信
06 栄養科・季節のレシピ

湘南慶育通信　季　刊　2019年5月15日発行
SHONAN KEIIKU QUARTELY PRESS　湘南慶育病院

病院までのアクセス

湘南台駅から路線バス利用の場合

湘南台駅西口 1 番バス乗り場から、神奈中バス「湘 23 系統慶応大学」「湘 24 系統笹久保経由慶応大学」「湘 25 系統急行・慶応大学」行きに乗り、「慶応大学」バスロータリーで下車（約 10～15 分）。バス停から徒歩 1 分。

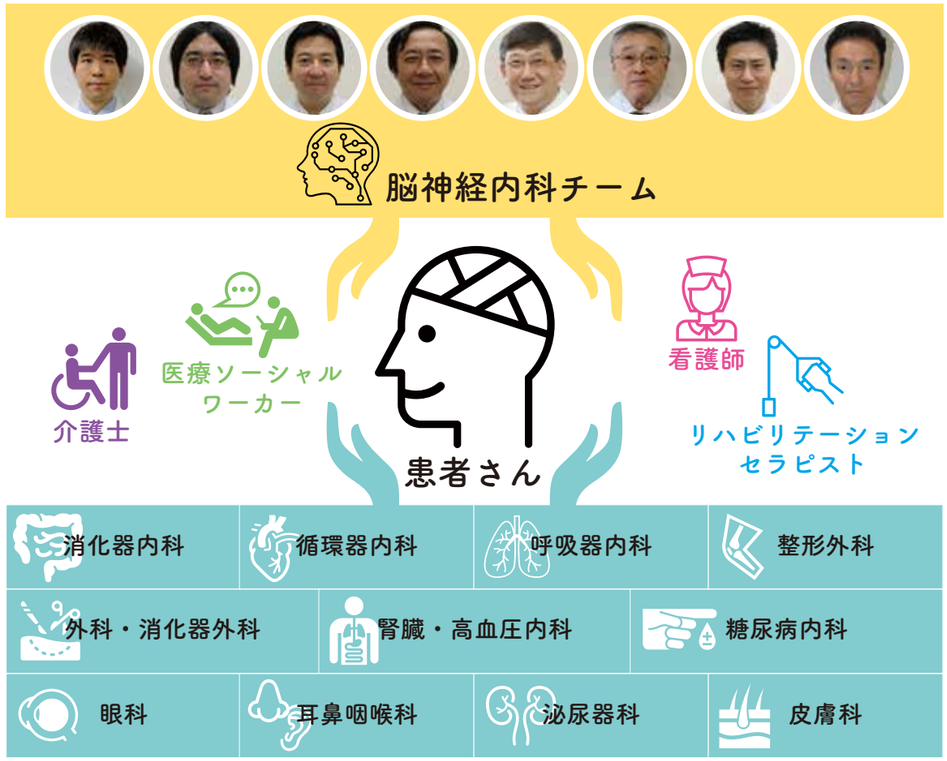
辻堂駅からバス利用の場合

辻堂駅北口 3 番バス乗り場から、神奈中バス「辻 34 系統慶応大学」行きに乗り、「慶応大学」バスロータリーで下車（約 20 分）。バス停から徒歩 1 分。

無料送迎バス利用の場合 ※平日のみ運行しております。

当院では無料送迎バスの運行を実施しております。時刻や運行ルートについてはホームページでご確認いただくか 1 階総合受付におたずね下さい。

患者さんを支える包括的診療チームのイメージ図



トピック

脳神経センター開設

神経疾病に対抗するために

今年4月より湘南慶育病院では、3月まで岩手医科大学で神経内科・老年科教授をされていた寺山靖夫先生を迎え、脳神経内科に更に力を入れていくべく、種々の神経疾患に包括的に対応するために脳神経センターを開設いたしました。

当院が位置する湘南東部医療圏において、人口増加と高齢人口増加にあたり、神経疾患の有病率は増大傾向にあります。脳出血・脳梗塞などの「脳卒中」、片頭痛・緊張型頭痛・群発頭痛などの「頭痛」、アルツハイマー病・脳血管性認知症などの「認知症」、パーキンソン病などの「神経変性疾患」等、神経疾患には多彩な症状がみられ、その中には運動機能や認知機能の低下が症状としてあらわれるなど、人の人らしいごく当たり前の生活すら難しくなるような疾患が多く存在しています。また、難治性の疾患も多いため完治が難しく付き合いが長くなるのも神経疾患の特徴です。

湘南慶育病院ではこれまで「脳卒中」「認知症」「パーキンソン病」「頭痛」などの疾患に対して、それぞれの専門医が外来診療・入院診療を通して最新の専門的医療を提供してきました。脳神経センターを設立することにより高齢化によっておこるあらゆる疾患を、脳神経内科の医師だけでなく皮膚科や整形外科など他の診療科の医師、リハビリテーションスタッフ、看護師、医療ソーシャルワーカーなど一つのチームとなり、共通のコンセプトを持ち包括的に診療を行います。

これまで難治性疾患と考えられていた神経疾患も、新しい治療法や治療薬が開発され、片頭痛や脳卒中などは治る神経疾患として認識されるようになってきました。また、認知症やパーキンソン病などでは病態の理解が進み、患者さんのQOLの向上を考えた治療法が開発されるようになりました。湘南慶育病院の脳神経センターはチームとして、患者さんのQOLを向上すべく、病状にあわせた治療をチーム一丸となって取り組み、患者さんと二人三脚で、患者さんの「その人らしい」生き方をサポートしていきます。

外来診療体制	月	火	水	木	金
午　前	脳卒中・頭痛	認知症・ パーキンソン病	パーキンソン病	脳卒中・頭痛 脳神経内科一般	頭痛
午　後	脳卒中・頭痛 （第１・３・４・５）	認知症	パーキンソン病 （第１・３・５）	脳卒中・頭痛	パーキンソン病

※診療体制は変更することがあります。最新の情報はホームページでご確認ください。

当院紹介

湘南慶育病院の理念

藤沢市の「健康と文化の森地区」に生まれた湘南慶育病院は、
地域医療から質の高いリハビリテーション・
慢性期医療に至るシームレスな医療を提供し、
また、大学との連携による健康増進・抗加齢医学など
最先端の研究を実践いたします。
そして皆さまの「その人らしい」生き方を尊重します。

病院所在地：	神奈川県藤沢市遠藤4360番地
運営：	医療法人社団 健育会
病床数：	230床
診療科：	内科、脳神経内科、消化器内科、循環器内科、腎臓・内分泌・代謝内科、呼吸器内科、外科、消化器外科、整形外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、精神科

院長ごあいさつ

湘南慶育病院
院長　鈴木則宏

湘南慶育病院は２０１７年に開院した新しい病院です。病棟は光を取り入れる建築構造によりとても明るく、また自然豊かな藤沢市遠藤という土地柄もあってか、病院内には優しく穏やかな空気が流れており、病気を治すという点においてとても良い環境立地を備えております。

この病院の強みは、一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟と幅広いジャンルの病棟があり、急性期・回復期・慢性期、どの時期の患者さんにも対応ができることです。そして、それにより高齢社会の中で疾患を抱える高齢の患者さんが増える中、疾患の治療はもちろんのこと疾患によって起こりうる二次的な疾患にも対応できることです。特に高齢者の疾患治療においては、生活機能も重視し、患者さんを全人的に捉えた治療を行っていきます。

私自身、２０１８年３月末まで慶應義塾大学医学部に教授として勤めてきた経歴を生かし、慶應義塾大学とのコミュニケーション、情報技術を活用した在宅診療をはじめとした研究的な取り組みなども積極的に進めていきたいと思っています。昨年、開院一周年を迎えるにあたり、病院の理念を医師・看護師・療法士をはじめとする病院のスタッフ全員で作り上げました。この理念を胸に、藤沢市遠藤地区を中心とした皆様の健康寿命を延ばし、健康を楽しむライフスタイルを作るお手伝いをして参りたいと考えています。

刊行にあたって

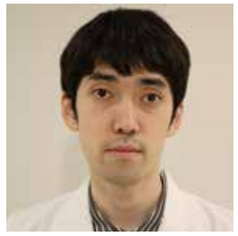
地域医療を担う病院として、湘南慶育病院が発行する季刊誌です。
なによりも健康。その一義に立って、価値ある情報をお届けして参ります。
季刊誌のため、最新情報はホームページをご覧ください。

連載 知りたい「診療科」

耳鼻科 *Otolaryngology*

受付時間｜火曜日 午後／ 13:30~16:00・木曜日 午前／ 8:30~11:30（9:30 診療開始）

難聴・耳鳴り・耳だれなどの疾患をはじめとする耳の病気、くしゃみ・鼻水・鼻づまりなどのアレルギー性鼻炎や花粉症をはじめとする鼻の病気、のどの扁桃腺の腫れや痛み・飲み込みの以上をはじめとする喉の病気が気になりましたら、当院にて受診してください。

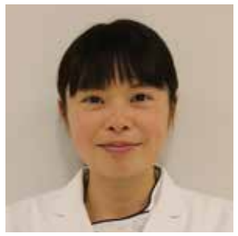


吉浜 圭祐　医師

耳鼻咽喉科専門医

●所属学会：日本耳鼻咽喉科学会,日本頭頸部外科学会,日本口腔・咽頭科学会,日本気管・食道科学会,日本小児耳鼻咽頭科学会

●メッセージ：こども、おとなの耳・鼻・のどのトラブルご相談ください。丁寧に診察いたします。



鈴木 麻衣子 医師

耳鼻咽喉科専門医

●所属学会:日本耳鼻咽喉科学会,日本小児耳鼻咽喉科学会

●メッセージ:日々の診療において、話しやすい雰囲気を心がけて行っております。病院では緊張される方も多いと思いますが、どうぞご気軽にご相談ください。

泌尿器科 *Urology*

受付時間｜月曜日 午前／ 8:30~11:30　木曜日 午前／ 8:30~11:30

泌尿器科は、内科疾患も外科疾患も幅広く、そして診断から治療まで一貫して泌尿器科医が診療にあたっています。例えば膀胱がんによる血尿の患者さんが外来にいらしたら、初診対応はもちろんのこと、膀胱鏡で診断をつけ、さらに手術で治療する、そして術後のフォローも自分たちで行う。この一貫性が患者さんとの信頼関係を築く意味でも非常に大事なことだと思っています。当院では手術は行っておりませんが、地域の先生方とも連携を取りながら、専門治療を行って参ります。

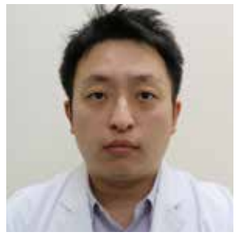
「尿に血が混じる」「健康診断で血尿と言われた」、男性で「尿が近い、排尿に時間がかかる」、女性で「尿が近い、尿漏れがある」などの症状がある時は泌尿器科外来をご受診下さい。

井手 広樹　医師

泌尿器科専門医

●所属学会:日本泌尿器科学会,日本癌治療学会,アメリカ泌尿器科学会,日本透析医学会,日本内分泌学会,日本泌尿器内視鏡学会

●メッセージ:ちょっとした排尿の悩み、相談も含めてお気軽にご相談ください。よろしくお願いします。



枡田 司　医師

泌尿器科専門医

●所属学会:日本泌尿器科学会,日本癌治療学会

●メッセージ:社会の高齢化に伴って、前立腺肥大症、過活動膀胱、泌尿器科がんの疾患が増えております。患者さんそれぞれに満足していただけるよう外来診療にあたらせていただきま

医師の横顔

脳神経センター長

寺山 靖夫 医師

Dr. Yasuo Terayama

16年間の岩手医科大学での勤務を終え、2019年4月1日より湘南慶育病院副院長、脳神経センター長として就任いたしました。岩手、青森、秋田県からなるいわゆる北東北3県は、日本の中でも最も医師が不足している地域であるとともに、脳神経内科の疾患、特に脳卒中、認知症、パーキンソン病に代表される神経変性疾患が多い地域です。岩手医科大学就任とほぼ時を同じくして始まった医師の臨床研修制度や専門医研修制度の大変革の波のなかで、医療過疎地での医師の確保・配置と遠隔診療などに代表される効率的な診療システムの構築に努力してきました。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災も現地で経験し、脳卒中、認知症、パーキンソン病、人工呼吸器を必要とする神経疾患などを抱える人たちに対する災害時医療の困難さも経験してきました。家族の住む神奈川県に16年ぶりに戻ってきたという安堵感はありますが、医療設備や医師数などの点では北東北3県とは比較にならないくらい充実した医療圏である藤沢市を含む神奈川県にもまだまだ未解決の高齢者医療の問題点を見るにつけ多少不安な気もします。

そもそも医療過疎地と首都圏の医療を同じ土俵で比較することは困難なことだとは思いますが、医療過疎地と呼ばれる地域では、人とのつながりが首都圏と異なり強いこともあり、医師が少ないなりに看護、介護、リハビリテーション、セラピスト、ソーシャルワーカー、薬剤師、検査技師などの医療者たちが有機的に連携して機能する医療がありました。そこではすでに、人口過疎地域における通院援助システム、遠隔診療システム、避難所などに住む独居老人の見守りシステム、緊急時の通報システム、宅配システムを利用した患者監視システムなどが存在し、私も深くかかわってきました。

首都圏では、居住人口に対する高齢化率や認知症有病率は過疎地に比べて格段と低いのですが、高齢者、脳卒中で寝たきりになっている人たち、パーキンソン病のために日常の行動が制限されている人たちの実際の数は過疎地に比べてとてつもなく多いことに気づかされます。その何パーセントの人たちが適正な連携医療を受けているかとなると、そう多くないはずです。また、都会では多様な価値観をもつ人々が多く、それぞれの価値観に合った医療を行うことは困難で、そのことが災害時などの状況では良好な避難所運営に大きな影響を及ぼすことも経験してきました。こう考えると、少子高齢化時代の医療システムの原型は医療過疎地域ではそれなりのものが出来上がってきているのに対して、神奈川県や東京都のような高齢者がさらに多く住む首都圏では未完で急務の課題ではないかと思います。

私はこれまでの経験を生かして脳卒中、認知症、パーキンソン病、頭痛などの神経疾患を中心にその予防と治療、さらには将来起こるかもしれない震災などの災害時における診療や遠隔診療などのシステム作りに皆様とともに微力ではありますが貢献したいと考えております。

医師の人となりを知る

このコーナーでは、湘南慶育病院の医師をピックアップし、ご紹介をします。
どんな経歴の医師が、どんな想いで湘南慶育病院での医療に携わっているか、ご覧いただけます。

連載 リハビリ通信

こころに働きかけるリハビリテーション

わたしたちリハビリテーション部では、病棟看護師や介護士、事務職員と協力して、病棟レクレーションや畑活動に取り組んできました。

患者さんから、「入院生活を送っていると季節感が感じにくくなる」や「他者と交流する機会や好きな余暇をする機会がなかなか持てない」とお聞きします。また、「家にいたら当たり前にできていたことがなかなかできない」というお話も聞きます。このように患者さんのおかれている状況を考えるとてもストレスのかかるのだろうと想像します。そのような入院環境のなかでより効果的にリハビリテーションを行っていただくためには…と思案した結果、病棟レクレーションや畑活動の取り組みを始めることになりました。

昨年7月は七夕の会を皮切りに、9月の創作活動の会（うちわ作り、飾り作り）12月のクリスマス会（ハンドベルと歌）、3月の歌の会を行いました。また当院のレクリエーションの特色として、慶應義塾大学SFC研究所所員の吉岡純希氏の協力を得て、デジタルアートを取り入れています。デジタルアートとは、コンピュータを用いて映像や音楽などの芸術作品を制作することを言います。

デジタルアートは、近年エンターテイメントの分野で注目を集めており、病院内のレクの一部、あるいはケアや療法の補助手段としても用いられつつあります。このような新しい取り組みについては、職能団体の学術大会（第6回臨床作業療法学会）でも報告予定です。病院ブログでも紹介されていますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。

当院では、先端的な機器も備えているリハビリテーション室がありますが、その一方で、このようなレクリエーションや畑の活動も重要だと考えています。それは、「こころが動けば、からだが動く」ということを大切にしているからです。わたしたちリハビリテーション部では、患者さんのこころにも働きかけるリハビリテーションを目指していきます。

リハビリテーション科ついて

リハビリテーション部の理念：「笑顔とともに」

患者さん、ご家族、リハビリテーション専門職、看護師等の病院職員、すべての人が笑顔になれるようなリハビリテーションを目指します。

総勢 70 名超のセラピストが在籍し、入院から在宅復帰まで切れ目のない 365 日リハビリテーションを提供しています。

栄養科から 季節のレシピ

筍ご飯・新玉ねぎとそらまめのかき揚げ 菜の花の酢味噌和え・清汁 桜ようかんイチゴ添え

栄養科では、患者さん一人一人の症状や栄養状態及び嚥下機能に配慮した食事を提供しています。

入院中でも季節を感じられるよう旬の食材を取り入れたメニューを作成し、毎月イベント食を提供しています。また、食事療法が必要な方には個別で栄養相談を行っています。

お花見メニュー

2019 年 4 月 3 日に湘南慶育病院で提供した実際のメニュー

入院中の食事は、治療の一環であると同時に、楽しみの一つでもあり、おいしい食事は元気の源です。心と体に栄養を届けます。

旬レシピ！

今が旬のそらまめ。サヤが上を向いているため空豆と命名されたと言われています。たんぱく質・ビタミンB群・Cなどの他、カリウム・鉄・銅などのミネラル類が豊富です。サヤから出して空気に触れると一気に鮮度が落ちるので、茹でる直前にサヤから出すといいですね。

トマトとそら豆のサラダ

材料（1人分）

- そら豆（むいた状態）20ｇ
- トマト・・・・・・・50ｇ
- 玉葱・・・・・・・・10ｇ
- オリーブオイル・・・3ｇ
- マジックソルト・・・1.2ｇ
- レモン汁（又は酢）・・3ｇ
- ブラックペッパー・・少々

作り方

①玉葱をみじん切りし 15 分ほど水にさらし、水気を絞る。
②そら豆を下ゆでしておく。
③トマトは一口大の乱切りに。
④オリーブオイル・マジックソルト・レモン汁・ブラックペッパーを合わせた中に、①②③を入れ、さっくり混ぜたら完成。

もう一品！

生で食べることが多い長芋。今回は、加熱料理のご紹介。冷めてもおいしくいただけるので、お弁当の1品としてもお勧めです。

春掘り長芋のチーズ焼き

材料（1人分）

- 長芋・・・・・60ｇ
- バター・・・・3ｇ
- 塩・・・・・・0.6ｇ
- こしょう・・・少々
- シュレッドチーズ・・15ｇ
- パン粉・・・・・・・3ｇ
- ドライパセリ・・・・少々

作り方

①長芋を厚さ 1cm の輪切りにし、歯ごたえが残る程度に下ゆでする。
②クッキングシートにバターを塗った上に①を並べ、塩・こしょう・シュレッドチーズをのせ、オーブントースターで５分ほど焼く。
③一旦オーブントースターから取り出し、パン粉をふりかけ更に３分ほど焼く。
④皿に盛付け、ドライパセリをかけて出来上がり。